

排水機場 22年復旧見込み

県会一般質問 浅川第1 県代行で

県は6日の県会一般質問で、台風19号豪雨災害で浸水被害を受けた長野市管理の浅川第1排水機場について、県による代行で2022年梅雨までの復旧を見込んでいます。同機場の復旧

は長野市が県に支援を要望しており、県は市から受託して復旧に乗り出す方向だ。

【一般質問発言4面に】

浅川の水を千曲川に排出するポンプを備える同機場は、増水した千曲川に流れ込めず

に内水氾濫した浅川などの水に漬かって機能が停止した。山本智章農政部長は、同機場の復旧について「浸水防止対策や排水ポンプの形式の見直しなどで、今回と同規模の洪水でも機能を失わないような

長野新幹線車両センター

設備のかさ上げ検討

台風19号で浸水被害が出た長野新幹線車両センター(長野市赤沼)に、JR東日本が電源装置など重要設備がある場所をかさ上げする検討

を始めたことが6日、同社へ取材で分かった。

センターは鉄道建設・運輸施設整備支援機構が所有し、JR東が借り受けて運用して

対策が必要だ」と述べた。

長野市が管理する浅川第2排水機場は、同市が既に復旧

に着手し、来年梅雨までに工事を終える予定という。和田

明子氏(共産党)への答弁。

産業復興を巡っては林宏行

産業労働部長が、被災した工

場や設備の再建を国、県が支

援する「グループ補助金」の

相談を受け付ける「県産業復

興支援センター」を、18日に

も県庁東庁舎に設けると説明

した。センターの窓口業務は県が委託する民間機関が担う。県が11月25日付で新設した産業復興支援室の職員らも常駐し、事業者の相談に乗るとしている。林部長は「グループ補助金の対象事業者は多く、相談内容も多岐にわたると予想される。利便性や十分な相談スペースを考慮して開設する」と述べた。清水純子氏(県民クラブ・公明)へ

の答弁。

県会は6日、全壊世帯に最大300万円を支給する国の被災者生活再建支援制度の拡

充や、千曲川など国管理の1級河川に都道府県管理の

「中抜け区間」があることの

解消を国に求めるなど7件

の意見書を全会一致で可決。

県監査委員に西沢利雄氏(7)

長野市を再任する人事案

に同意した。任期は8日から

4年。

がある建物にも泥や水が入っており、復旧作業を進めている。

センターは建設当時、地盤から約2倍のかさ上げをした。国土地理院の今年10月の調査では、センター付近の浸水は4・5倍に達した。長野市のハザードマップでは千年に一度の大雨があると、10、20分の浸水が想定されるとしている。

JR東広報部は信濃毎日新聞の取材に「今回のような雨が降っても、速やかに運転再開できるようにしたい」としている。



信濃川の治水

新潟でも会議

台風19号豪雨災害で千曲川流域に甚大な被害が出たことを受け、国土交通省北陸地方整備局と新潟県、同県内の7

市町は6日、信濃川中流域の

河川整備の在り方を検討する

緊急治水対策会議を同県長岡

市で開いた。長野県内の千曲

川の河川整備を巡る対策会議

は11月下旬に発足。二つの対

策会議は両県の関係者の意見

を踏まえ、千曲川から信濃川

中流域の信濃川水系におい

て、今後5年間で対応するべ

き対策を「緊急治水対策プロ

ジェクト」としてまとめる。

この日の対策会議には、台風19号で浸水被害があった新潟県小千谷市や長岡市の首長らが参加。出席した同県津南町の小野塚均副町長は、千曲川(信濃川)では長野県飯山市から新潟県十日町にかけて、国ではなく長野、新潟両県それぞれが管理する「中抜け区間」があるとし、「堤防や護岸の強化を国の後押しで早期に完了してほしい」と求めた。

緊急治水対策プロジェクトは、「河川対策」「ソフト対策」「流域対策」の三つを柱に据える予定。同整備局の志野直紀河川計画課長は会議後の取材に「中抜け区間での対策も含め、両県と連携して取りまとめる」と話した。